

ブラジル日本移民110周年記念作文コンクール授賞式

大使挨拶

皆さんおはようございます、駐ブラジル日本国大使の山田です。

まず始めに、日本語普及協会の三分一（さんぶいち）理事長、矢田（やだ）副理事長をはじめ、本コンクールの実施、生徒さんたちへのご指導に尽力されてきた全ての先生方に心より敬意を表します。

今回、大使賞を差し上げるという関係で、私自身が12の候補作品を丁寧に読ませて頂いたことで、それぞれの皆さんが日本語の学習を始めたきっかけや、日本語と日本文化にかける熱い思いをととてもよく理解することができました。一人ひとりの皆さんが自分の言葉で日本を語っていて、どれも甲乙つけがたく、これは「日本人ブラジル移住110周年」という記念すべき年に、本当に相応しいコンクールだなあと嬉しく思いました。

日本はブラジルから見れば地球の反対側、最も遠い所にあるわけですが、700以上の日本企業がブラジルでビジネスをし、5万人以上の日本人がブラジルに住み、日本語とポルトガル語を使いながらブラジルの人たちと一緒に仕事をしています。

一方、日本には約18万人のブラジル人が住み、日本の経済に大きく貢献し、ブラジル文化を日本に広める役割を果たしています。そして、2020年にはリオから東京へオリンピック・パラリンピックの旗が引き継がれます。2年前に多くの日本人がリオを訪れたように、今度はもっと多くのブラジル人が日本を訪れるものと期待しています。

私たちはこうした両国の絆、友情、協力関係をこれからもっともっと強くしていきたいと考えており、そのための最も重要な架け橋の一つが日本語の学習であると考えています。私をはじめ、在ブラジル日本国大使館のスタッフは引き続き、日本語学校や日本語学習者への支援を充実できるように努力していくつもりです。

本コンクールに参加したすべての方が日本語の勉強や日本人との交流を続け、日本文化への関心を持ち続け、両国の架け橋になって頂くことをお願いしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。